

赤山せきざんの社やしろは修学寺村しゆがくじの東山下とうざんにあり、慈覚大師じかくだいし唐土もろこしより帰朝きやうのとき、明神みんじんは白羽しろはの矢負やぶふて船ふねの上に現あらじ、天台守たいたいしゅ護ごとなり給たまふ、神託しんたくによつて此所こゝに觀請くわんじゆしけり。「転宅てんたくの節ふし、当社たうぢの神札しんせつをうけて家いへに張はりれば、鬼門きもん金神こんじんの崇あがなしとぞ」
神前かみまへに迦字かじの梵字ぼんじを三所さんじよにかくる、本地堂ほんちだうは地藏菩薩ぢぢやうぼさつにして、慈覚大師じかくだいしの作つくなり。